平成２７年２月発行

神奈川県立がんセンター広報誌　Vol.59

がんセンターだより

診療情報公開サービス

かもめ　ゆめいろネット

副院長　大川　伸一

「かもめ・ゆめいろネット」とは、地域の医療機関に対して、インターネット経由で、電子カルテの情報の一部を公開するシステムのことで、当センターでは、平成25年11月から運用を行っております。

このシステムにより、地域の医療機関の医師は、がんセンターでの検査結果や放射線画像等を閲覧しながら、診察ができるようになります。もちろん、厚生労働省のガイドラインに準拠したセキュリティ対策を施しているため、患者さんの個人情報は最大限に保護されていますし、同意が得られた患者さんが対象です（利用方法などは、神奈川県立がんセンターホームページを御覧ください。）。

このような取組みは、他県や韓国などではすでに活発に行われてきておりますが、神奈川県内で実施している病院はほとんどありません。インターネットを活用し、医師に正確な情報を届けることで、医療の世界が夢色に変わっていくよう、このシステムを広げていきたいと考えております。

がん患者さんへの 就労支援事業 が始まっています

緩和ケア・患者支援センター

平成24年6月に「がん対策推進基本計画」が見直され、重点的に取り組むべき課題の一つとして、「働く世代や小児へのがん対策の充実」が取り上げられました。

がん医療の進歩とともに、がん患者・経験者の中にも長期生存できる方が増えてきた一方で、がんに罹患した勤労者の30％が依願退職し、4％が解雇された（厚生労働省班研究）という現状があり、働く世代への支援は打ち出されました。

現在、がん患者さんが働き続けることができるような支援、一度職を失っても新たに職を得るための支援が必要とされています。

神奈川県立がんセンターのがん相談支援センターでは、労働の専門職と協働して次のような相談事業を、平成26年度から開始しました。当院におかかりではない方のご相談もお受けしています。どうぞご活用ください。

○ハローワーク横浜
　就職ナビゲーター出張相談（予約制）
　毎月　第２月曜日（休日は除く）13時～16時30分

○社会保険労務士の出張相談（予約制）
　金曜日　第１・第３　10時～14時
　　第２・第４　13時～17時

問い合わせ先
　電話　045-520-2211（直通）

ESMO 2014 に参加して

レジデント　中園　綾乃

今年度のESMOは2014年9月26日～30日、スペイン・マドリードで開催されました。会場はマドリードの中心街から地下鉄で30分ほどの郊外にあり、広い敷地面積のあるところで、雰囲気としては幕張メッセのような感じでした。国際学会に参加するのは初めてであり、その規模の大きさに圧倒されました。

消化器領域では注目演題としては、大腸がんの分子標的薬の比較試験、FIRE3のRAS解析可能集団の早期腫瘍縮小効果、奏功の深さの評価解析や、大腸がんのTAS102 vs プラセボの比較試験、肝細胞がんのsorafenib使用後の2nd lineとしてのramucirumabのPⅢなどがありました。各演題の発表時に、研究協力施設へのみならず、臨床試験に参加した患者、またその家族へも感謝を表明しているところが印象的で、臨床試験へ対するオンコロジスト達の姿勢を学びました。

とても刺激的な4日間で、この経験を糧に自分の勉強のモチベーションを維持し精進していきたいと思います。このような貴重な経験をさせて頂き大変感謝しております。

レジデント　間邊　早紀

2014年9月26日から9月30日にスペイン・マドリッドで開催されたESMO 2014に参加いたしました。ESMOはASCOと並ぶがん関連では大規模な国際学会のひとつであり、例年国際共同試験等のbig dataが多数発表されます。いつかは参加したいと思った矢先にその機会を頂きまして、病院ならびに呼吸器科の先生方に感謝申し上げます。

初めてのスペイン、初の国際学会、ひいては非英語圏で超苦手な英語を頼みに聴講し理解せねばという苦行の予感とともに渡航しましたが、実際は観光時間を削っても聴講が楽しく、会期中は睡魔に襲われる余地もありませんでした。肺癌領域での最も大きな発表のひとつにGefitinib耐性後のシスプラチン/ペメトレキセド上乗せ効果を検証したIMPRESS試験があり、結果は無増悪生存期間を延長せず全生存期間が上乗せ群で短い傾向（data不完全）であり、まさしく会場が”impressive…”と落胆する瞬間に立ち会うことになりました。そして、かねてより苦手意識の強かった「統計」の勉強の必要性を改めて認識し、motivationを上げることにもなりました。次回はぜひ発表を兼ねて参加したいと思います。

新任医師を紹介します

職員の異動がありましたのでご紹介します。
宜しくお願いします。

臨床研究所　がん免疫療法研究開発学部　部長
兼 がんワクチンセンター　部長
兼 免疫療法科　部長
笹田 哲朗

治験管理室
医 長
瀧田 盛仁

新しいがんセンター 部門紹介（最終回）

神奈川県立がんセンター部門紹介最終回は、病棟（10病棟）、外来、外来化学療法室、手術室、臨床研究所（がん生物学部、がん分子病態学部、がん治療学部、がん予防・情報学部、がん免疫療法研究研究開発学部）、企画調査室の19部門の紹介です。

３Ｅ病棟

３Ｅ病棟は、16床のベッドを持つHigh Care Unitです。全身麻酔手術後の患者さんや全診療科の集中治療が必要な重症患者さんを受け入れています。HCUには、呼吸・循環を助ける治療用機器、モニター類、診断機器他、感染対応のための陽・陰圧換気ができるシステムが揃っています。急性期にある患者さんが順調に回復できるよう医師･看護師･他職種がチームとなり全身管理を行うとともに、心身の苦痛を和らげることも大切にしています。

３Ｓ病棟

主な診療科は、消化器内科（消化管）です。さらに夜間休日受診の対応病棟として全診療科の患者さんを受け入れています。昨年１年間の夜間休日緊急受診は898件で、311件が３Ｓ病棟に緊急入院となりました。また、地域連携病床としての運用やＲＩ治療の患者さんも受け入れています。全診療科を対象とする緊張感を感じながらも、新しいセクションとしてチームワークを大切にし、スタッフ一丸となって様々なことに挑戦しています。

４Ｅ病棟

４Ｅ病棟（50床）は主に大腸、肝臓、胆道、膵臓の領域における悪性腫瘍に対し診断をはじめ､外科的治療および内科的治療を行います。消化器系のがんはQOLに直結する「食事」や「排泄」に大きく影響を与えるため、残存機能を最大限生かしながら､患者さんが最期までその人らしく「生きる」ことを支えています。スタッフは看護師28名、関連診療科医師21名、管理栄養士１名、薬剤師2名、看護補助2名、ＭＡ(ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｱｼｽﾀﾝﾄ)4名です。「対話･つなぐ」をキーワードにチームワークで日々頑張っています。

４Ｗ病棟

４Ｗ病棟は肝胆膵内科･胃食道外科の混合病棟です。入退院が多く、忙しい日々です。そんな状況でも、みんなで力をあわせチームワーク良く頑張っています。医師・看護師・他職種との連携を図り、コミュニケーションよく活気ある病棟です。昨年の移転では、物品整理や移送する患者の準備等が大変でしたが、貴重な体験でした。設備が新しくなり、物品も整理され、患者は過ごしやすく、スタッフにとっても働きやすい環境となりました。

５Ｅ病棟

５Ｅ病棟紹介（泌尿器科・頭頸部外科・乳腺内分泌外科（甲状腺）・形成外科・皮膚科）。　昨年の移転と同時に診療科変更に伴う新チームとなり、チーム一丸となり、ファジーな雰囲気と新たな気づきを生かしながら患者さんへの安全安心な医療の提供に取り組んでいます。特に、平均入院期間約1.5月の頭頸部外科と高速回転の泌尿器科という医療提供速度の緩急に合わせ、高齢男性という患者特性に寄り添った対応を大切にしています。

５Ｗ病棟

新棟移転に伴い５Ｗ病棟は、腫瘍内科・骨軟部腫瘍外科・呼吸器内科・血液内科4つの診療科再編成によりスタートしました。各診療科医師と新たに構成された看護スタッフで病棟づくりを始め、移転当初の混乱で大変な時期もありましたが、目標に向かってチームで取り組んだ事はチーム力向上に繋がったと思います。私たちは、チームで協働し、患者さんやご家族の意向を尊重した安全で安楽な療養と環境を提供することを基本方針に対話を大切にした看護を実践しています。

６Ｅ病棟

現在、看護師 28 名（科長含む）・看護補助2名が勤務しています。当病棟は、乳腺内分泌外科・婦人科を中心とした女性病棟です。患者さんは、治療に伴う苦痛やボディイメージの変容、女性性に関わる苦悩を抱えています。私達は、その思いに応えられるよう多職種と連携した看護を目指しています。移転して日頃感じている事は、病室が広く患者移動がスムーズに行えるようになって良かった反面、看護師・患者さんの動きが見えにくくなった事です。

６Ｗ病棟

新病院移転に伴い、呼吸器内科・呼吸器外科・脳神経外科の病棟となり、10 月から、２交替を試行中です。11 月迄の病床利用率は87.1%、平均在院日数10.2日で、病床回転率の高い病棟ですが、チームワーク良く、明るく笑顔で取り組んでいます。私達は、患者さんやご家族に寄り添うことを大切に、医師、薬剤師、栄養士、理学療法士やMA等の他職種と連携し、安心で安全な医療・看護が提供できるように努めています。

７Ｅ病棟

７Ｅ病棟は、緩和ケア内科医3名と看護師26名、ボランティア、MAらで、主に緩和が困難な症状を抱えた終末期の患者さんを担当しています。移転後、屋上庭園、3つのお風呂、家族控え室の増室など、ハード面が大きく改善されました。一方で、想像以上に広い病棟に慣れるのに時間がかかりましたが、ようやく体がついてくるようになりました。20床に増床されたことで、待機期間は数日～２週間程度で運用しています。

外　来

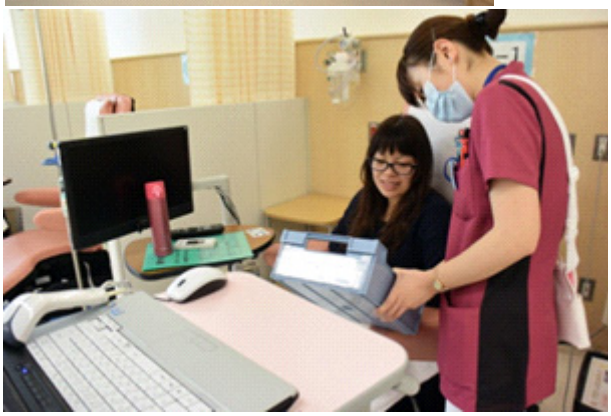
外来診察室はＡ～Ｅまでのブロックで59の診察室を有し、とても広くなりました。呼び出しシステムの変更や処置室（15床）の設置によって動きが変わり、移転当初は戸惑いの声が多かったですが、1年を過ぎて落ち着いてきました。入院期間が短縮し、外来でも体調の良くない患者さんが増加しています。限られた人員の中で患者さんにとって安全･安楽な医療が提供できるように努めていきます。

７Ｗ病棟

７Ｗ病棟は無菌病棟であり、病床数は30床になりました。入院患者さんは治療中、病棟外へ出ることができませんが、旧棟よりも広いスペースとなり閉鎖空間が少し緩和されました。また、西側の窓からは富士山や丹沢の山々は絶景です。移転直後はさまざまなことが変更になり、戸惑う事が多かったですが、1年経過しスムースに業務が運ぶようになってきたと感じています。これからも、移植患者さんへの治療・看護を頑張ります！

外来化学療法室

外来化学療法室は、病院棟玄関のエスカレーターを昇り左手にあります。医師４名、薬剤師２名、看護師17名、看護補助１名、メディカルアシスタント７名が勤務しています。移転して良かったことは、広くなり、２つの注射室と面談室・リラックススペースも併設されたことで、患者さんからはきれいで居心地がよくなったと好評です。ひとりでも多くの患者さんに安全・安心ながん化学療法を提供できるように頑張っていきたいです。



手術室

新棟になり、手術室は6から12室へ増えました。現在は7列稼動を目標に運営しており、30名の看護師と8名の麻酔科医が、16診療科の手術を月平均253件行っています。また、最近の手術の特徴として内視鏡下手術が増えてきています。私達看護師は，少しでも患者さんの不安を軽減できるように術前訪問を行い、手術中は体位による神経損傷等の二次的合併症予防に注力して取り組んでいます。

臨床研究所 がん生物学部

＊がん生物学部の業務

当研究部門では、国内外とはず異分野領域と積極的に交流し、多角的な方法論により、がん細胞の悪性形質獲得の分子機序を包括的に理解し、基礎研究から臨床応用に発展させることで、これまでにない、新規がん治療法・診断法の開発を目標としています。

＊引越しの際に苦労した点

大型機器がエレベーターに入らず、クレーン車を使用したこと。

＊引越しして良かった点

研究所の各部門との交流が活発で研究の幅が広がりました。

臨床研究所 がん分子病態学部

＊部門の紹介

培養がん細胞／動物での実験と、患者さんがん組織の解析を有機的に結びつけて、より優れたがんの診断・治療法を開発する研究に励んでいます。使う技術は、病理形態学、分子細胞生物学から次世代シークエンサーでの遺伝子解析など多彩です。

＊移転して良かった／大変だったこと

良かったことは沢山あって書き切れません（感謝）。有機溶剤を使う形態解析実験室の職場環境も整いました。試料／試薬の整理が大変でした。

臨床研究所 がん治療学部

がん治療学部では、新規抗がん剤の開発、悪性胸膜中皮腫診断薬の開発、再発予測マーカー遺伝子の探索を中心に研究を行っています。引越の際には、－80℃で保存している試料の移動や実験機器の再配置に苦労しましたが、いくつかの研究機器が新たに整備され、また、実験室も若干ですが広くなり、これまで以上に研究に集中できる環境になりました。より良い成果を上げることができるよう、日々の研究に勤しんでいます。

臨床研究所 がん予防・情報学部

＊研究内容の紹介

地域がん登録室を併設しており、がん死亡統計のみならず罹患統計を利用したがん疫学研究を行っています。またがん教育指導法の開発や、質的研究、健康の社会的決定要因に関する研究等、所内で唯一、社会医学的研究も行っています。統計相談、論文投稿の際の解析アドバイスを求めて臨床の先生方がいらっしゃることも多い学部です。

＊移転してよかったこと

古い書類や備品、物品等を移転を契機に綺麗に整理できた事。

臨床研究所 がん免疫療法研究開発部

最近、がん免疫療法が外科療法、化学療法、放射線療法に続く「第４の治療法」として注目されています。副作用が少なく体への負担が少ないため新規治療法として期待されていますが、まだ標準治療として確立されていません。我々は科学的根拠に基づいたがん免疫療法開発のために、基礎研究を実施しております。得られた成果をもとに、がんワクチンセンター（免疫療法科）で臨床試験を実施し、新規治療法の確立を目指しております。

企画調査室

アンカーは、この「がんセンターたより」を編集・発行している企画調査室です。企画調査室は、病院棟から一番遠く離れた、管理・研究棟５階の一番端、窓からみなとみらいが眺望できる部屋から、広報担当として情報発信しています。ホームページでは最新の情報をお届けしています。さらに神奈川県で唯一の「都道府県がん診療連携拠点病院」である、がんセンターの事務局として、県内の他の拠点病院等と連携を図り、院内がん登録では指導的役割を果たしています。

2015.1.24

神奈川県立がんセンター
第６回市民公開講座「がんを知る」

子宮体癌、前立腺がんの最新治療

多くの方々にがんに関する正しい知識を提供していけるよう平成21年にスタートしましたこの講座も、第6回目を迎え、今回は子宮体癌、前立腺癌を取り上げることとなりました。

最初に今年度からスタートしました漢方サポートセンターやワクチンセンターの紹介を行いました。

第1部では増加傾向にある子宮体癌について、加藤先生、小野瀬先生から診断・手術・化学療法の詳細を、近内先生から内視鏡手術の現状についての講演を行いました。

第2部では比較的、癌の中でも進行が遅いとされている前立腺癌について、岸田先生、河合先生、水野先生からＰＳＡ検査や手術・放射線治療、また癌と上手に付き合っていくための薬物療法の講演を行いました。

終了後のアンケートでは、「早期発見の鍵となる健診の重要性」や「最新治療について詳しく聞けて参考になった」などの声をいただきました。

寒い1日でしたが、多くの方々にご参加いただき、大変有意義な講座となりました。（総務課）

神奈川県保健衛生表彰を受賞して

薬剤科部長　楠原義宏

この度、平成26年度神奈川県保健衛生表彰（知事表彰）を受賞いたしました。これまでお世話になった皆様に感謝するとともに大きな責任を感じ、身の引き締まる思いでおります。県立病院の薬剤師としてのスタートは、昭和54年の県立成人病センター（現県立がんセンター）です。ここで薬剤業務の基礎を学び、その後、県立こども医療センター、県立精神医療センター、県立足柄上病院へと異動し、再び県立がんセンターに戻ってまいりました。その間、多くの方々にご指導いただきながら、日に日に進歩する医療に携わることができたのはとても幸せなことでした。

今後もいろいろな分野の方と力を携えてより良い医療を提供していくことが受賞した者の務めと考えております。ありがとうございました。

緩和ケア研修を開催しました

緩和ケアチーム専従
緩和ケア認定看護師　山口里枝

１月31日～２月１日に、当センターでは7回目となる緩和ケア研修会が開催されました。がん対策基本計画で、がん診療に携わる医師が緩和ケアの基本的知識を習得するという目標を掲げ、がん診療連携拠点病院でこの研修の実施を義務付けています。

この研修は「PEACE」というプログラムを元に講義や症例検討・ロールプレイ等を行います。今回は、当センターの医師の他に他施設の医師、その他の医療従事者45名の参加があり、例年以上に当センターの医師の参加が多かったです。

緩和ケアが普及することでがん患者さんのＱＯＬ向上を支える体制が充実していくと考えます。

次年度以降も同研修を開催する予定です。

ドラマ・映画撮影に協力しています

撮影協力したドラマ・映画の一覧です。

タイトル	出演
チーム・バチスタFINAL ケルベロスの肖像	仲村　トオル 伊藤　淳史 西島　秀俊 松坂　桃李 ほか
医龍4 ～Team Medical Dragon～	坂口　憲二 稲森　いずみ 小池　徹平 阿部サダヲ 佐々木　蔵之介 ほか
私という運命について	永作　博美 池内　博之 ほか
珈琲屋の人々	高橋　克典 木村　多江 ほか
鉄道捜査官14	沢口　靖子 ほか
花咲舞が黙ってない	杏ほか
サイレント・プア	深田　恭子 前田　亜季 ほか
ママが生きた証	阿部　サダヲ 貫地谷　しほり ほか
切り裂きジャックの告白 ～刑事　犬養隼人～	竜　雷太 沢村　一樹 ほか
ゼロの真実	武井　咲 尾美としのり ほか
刑事の証明8	村上　弘明 加藤　剛 ほか
ドクターハート 薮田公介の事件カルテ	中村　梅雀 木下　あゆ美 ほか
SAKURA ～事件を聞く女～	仲間　由紀恵 佐藤　隆太ほか
シンデレラデート	星野　真理 眞島　秀和 ほか
新・刑事吉永誠一	船越　英一郎 ほか
トラベルミステリー63	高橋　英樹 ほか
DOCTORS ～最強の名医Special2015～	沢村　一樹 比嘉　愛未 ほか
ディア・シスター	石原　さとみ 松下　奈緒 ほか
法医学教室の事件ファイル40	名取　裕子 宅麻　伸 ほか

ボランティア会ランパスによる患者さんのための３月・４月木曜ミニコンサート予定表

時間：午後1:30～ 2:00（約30分間）

3月　5日	トリオ	ルミエール
3月12日	ピアノ	藤牧優里
3月19日	ピアノ	小黒智子
3月26日	アンサンブル	栄ゾリステン
4月　2日	声楽	江口正之
4月　9日	アコーディオン	園田容子
4月16日	連弾	井上眞記子 上月早苗
4月23日	ピアノ、フルート	伊藤秀子
4月30日	フルート	森本　薫

***** 平成26年度　10月・11月・12月・1月 *****

1日平均患者数　（単位：人）

区分	10月	11月	12月	1月
入院	362.9	340.5	329.1	313.2
外来	887.0	918.6	988.6	955.7

編集後記

新がんセンターの部門紹介も本号で最終回になりました。各病棟からは、手術・化学療法・放射線治療に加えて、がん治療に大切な“笑顔”を届けていただきました。また、雨漏れのする古い研究所から新棟に引っ越した臨床研究所のスタッフの言葉からは、がんの診断・治療に繋がる素晴らしい研究が着実に進んでいることが伝わってきます。さらに、研究所には第４の治療法である「がん免疫療法」に関する部門に笹田先生が着任され、今後の発展が期待されています。時節柄、人事異動を前になんとなく落ち着かない日々が続いていますが、インフルエンザのピークも過ぎて“もうすぐ春です”ので、明るく、元気に頑張りましょう。

編集・発行　：　神奈川県立がんセンター　企画調査室
〒241－8515　横浜市旭区中尾２－３－２
TEL　045-520-2222（内線2510）
http://kcch.kanagawa-pho.jp/